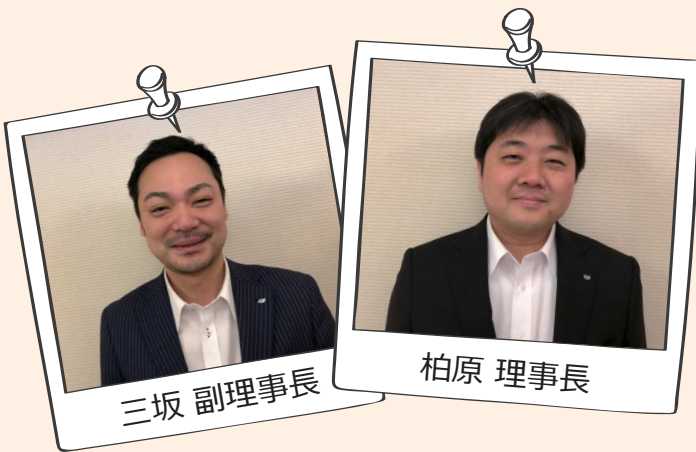


# 全国拡大事例 成功発信プロジェクト

## 2018

### 第3弾 網走青年会議所

(一社) 網走青年会議所は、2016年度の12月までに16名の新入会員拡大に成功し、20代拡大部門において優秀拡大LOM賞を受賞されました。拡大に燃えた一年間、熱い拡大運動の中を最前線で走ってきた柏原理事長・三坂副理事長(当時の専務理事)をはじめ、当時長崎から網走へと移住し入会を決めた20代会員、鎌田副委員長にお話を伺いました。



三坂 副理事長

柏原 理事長

**毎年、会員拡大をしていると思いますが、この年に大きく拡大しようと思つた理由を教えてください。**

毎年いつも30名ぐらいの会員数で推移していました。  
この年の前年度は北海道地区大会網走大会の年でしたが、地区大会で「愛郷心とはなにか」ということを言い続けてきたため、同じ志で活動する仲間を増やさないといけない、という強い思いから当時の石垣理事長によりスローガンを「拡大」としたからです。  
会員拡大に重きを置き、20名ほどの拡大目標に向かい取り組みを行ってまいりました。

**具体的にどのような取り組みを行ったのですか？**

理事会が終わった後に、毎回、必ず一時間ぐらい拡大の話をしました。基本的にはリストをもとに、その時点での状況確認を行ってまいりました。

**その時に拡大担当者はいましたか？**

拡大のリーダーとして、ひとつの委員会が拡大の担当となりました。当時の近藤委員長が拡大担当者として、全体を盛り上げていきました。

**どのように盛り上げていったのでしょうか？**

拡大の全体ラインを立ち上げ、毎日ラインで状況を流していました。時には関係のない話や写真などを入れながら、みんなが常に拡大に対する意識を保っていられるように行動していきました。もちろん、全体ラインなので、モラルの問題や深夜の時間帯での投稿の禁止など色々なルールは設けました。  
その他には、LOMの事務局に大きな模造紙を張り、新入会員の名前を記載していききました。  
意識づけをするために、当時の石垣理事長の発案により、大きなOを模造紙いっぱい描いて色を塗りつぶしていきました。

**その中で20代のメンバーが5名入会されたとのことですが、20代に絞った理由はありますか？**

特に20代に絞ったわけではなく、拡大の取り組みを行っていった中で20代が多く入会されました。その中には大学生もいて、親が会費を出してくれています。1年後には卒業をされました。また、長崎から網走に移住された20代の入会者もいらっしゃいました。現在の鎌田副委員長です。網走市では「網走ちゃんぼん」に力を入れており、その活動を通して長崎とのつながりできたことがきっかけになりました。

**見込み者に対して拡大運動を行うにあたり、何か工夫したことはありませんか？**

フォーメーションを作り役割によってアプローチをしやすくする工夫を考えました。  
具体的には、ホワイトボードにサッカーのフォーメーションを書き、FW、MFを決めました。  
役割として、FWがゴールを決める人、つまり入会の決め手を話してくれる存在。  
MFはパスをまわす人、つまり情報・アポ取りを行いFWに提供してくれる役割です。  
決め手が得意な方、顔が広く情報を持っているが上手く話ができない方など、さまざまなメンバーがいる中でLOMメンバーみんなが何かひとつでも役割を持って関わられるために考えました。

つても役割を持って関わられるために考えました。

**FWの人は、拡大対象者の方と初対面の場合、どのようにお話しするのでしょうか？**

ひとつはプライドをこちょこちょやるパターンです。

「お前、そんなにいいの？」、「いつ本気になるんだ？」などというように、相手のプライドをこちょこちょよくすぐります。

他には、JCの色を少しずつ出していくパターンです。仕事の話や悩み、今後の目標などを聞き手となり話を聞いていき、その話の中で地域の企業人の名前を挙げ、JCにはこういう素晴らしい人がいる、ということ伝えていきました。終盤は悩みや目標に対し、JCが解決や達成の糸口になることも伝えていく中で、奉仕や地域づくりの素晴らしさをお話ししていきます。そして最後の決め台詞は「是非一緒にやりましょう！」です。

**現在も拡大ラインは続いているのでしょうか？**

現在は拡大のラインというものはありませんが、LOMメンバー全員が入っているラインはあります。そして、拡大についてはリスト作って行っております。  
なかなか毎年同じ人に声をかけるのは大変なことですが、継続していく

ことが大切だと思っています。また、どこかのタイミングで、LOM全体が一丸となって拡大に対する大きな熱き情熱という炎を燃やすことも必要です。

**今後、網走青年会議所で行ってみたい会員拡大活動はなんですか？**

やってみたいなということとは、女性だけ集めた交流会などを他LOMでやってらっしゃいますので、そういう交流会も開催してみたいと思います。

**北海道の皆様へ向けて一言お願いします。**

拡大運動は必要な時にすぐに行えるものではないと思います。少しずつ拡大を経験し、やり方をわかってくるとその積み重ねが拡大を大きく後押ししてくれます。普段から拡大を心掛けて、情報のやり取りとメンバー一人ひとりの拡大への関わりが必要不可欠と考えます。LOM全体で情報共有し、拡大に対し盛り上げる手法を用いることも大切なことだと思います。



鎌田 副委員長

**北海道へ来た時の心境を教えてください。**

もともと整骨院の学校を卒業しておりマツサージの仕事をしたかったのですが、網走とちゃんぼんでのつながりがあったので、網走に移住することになりました。「網走は仕事もあるから」と言われたことも移住を決断する決め手となりました。

途中で何度も地元へ帰ろうと思ったこともありましたが、事務所用のビルを手配していただいたり、住むところの確保や人のつながりによる仕事の支援など、JCメンバー・OBの暖かな支えがあり開業することができました。

**JCに入会したきっかけとなったことはなんですか？**

長崎から移住し、当時の近藤委員長のところへ居候をしていたのですが、北海道地区の事業として一般入場ができる札幌のフォーラム（JCフォーラム）があったので網走から足を運んだ際に、そのフォーラムで講

師を務めていた上田先輩の話聞いてとても熱くなりました。入会を決めたのはあのフォーラムのおかげです。

**入会した時のJCのイメージを教えてください。**

宗教かと思いました（笑）ただ、入ってみると色々な議案を作っている人など、修練の機会がたくさんありました。当時のアカデミーメンバーとも仲良くつながっており、とても楽しいです。

**これからの新入会員へ向けて思うことはありますか？**

まずはアカデミーの中で仲良くなつて団結を深めていただきたいと思っています。JC以外の知り合いがいないので、新しい世界が見えてきます。10歳年上の人と話せる機会なんてなかなかないので、本当に貴重に思います。自分なりに対象者を見つけて、同じ気づきを得ていただける方が少しでも増えていってくれたらうれしいです。

**何名ぐらい拡大したいですか？**

卒業まであと15年あるのでそれに……。

# 2018 大例プロジェクト 全国成功発信

## 編集後記

北海道内では八雲青年会議所に続き、網走青年会議所に取材をさせていただきました。

網走青年会議所は7月理事会をもって、当該年度の途中入会が終了します。

拡大を成功させるには、早い段階から継続してLOM全体で拡大意識を保つことが必要だということを感じました。

そのために、さまざまな手法を用いながらも楽しく拡大を行っていた様子が、インタビューの際とても楽しくお話されていたことから見受けられました。

“楽しい”を伝えていくこと。入会する理由はさまざまですが、入会者にとつて安心してJC生活を送れるように、同じ青年経済人として、ひとり一人のメンバーが助け合っている網走青年会議所メンバーの姿にとっても感動を覚えました。

今回、大変お忙しい中で取材にご協力いただきました柏原理事長・三坂副理事長・鎌田副委員長、同席いただきました中村会長・網走青年会議所役員の皆様には心より感謝を申し上げます。

拡大維新特命会議

議員 山中 大輔